

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ 発生時の防疫措置について

今シーズンに備えたこれまでの取組

○総務省勧告に係る対応

➤ 4月22日 総務大臣勧告

「自衛隊の災害派遣に関する実態調査—家畜伝染病への対応に関して—の結果（勧告）」

【勧告内容】

- 1)都道府県に対し、家畜の殺処分について市町村や関係団体の協力も得て人員確保を図り、動員計画に反映させるよう促すこと
- 2)都道府県に対し、家畜の殺処分に関する自衛隊との役割分担を検討する際に、緊急性も考慮した上で適切なものとするよう促すこと

➤ 5月25日 消費・安全局長通知

⇒勧告内容を踏まえた動員計画の見直し等を依頼

○防疫演習の実施

各都道府県において、鳥インフルエンザの発生時に防疫対応が迅速に行えるよう、防疫演習を実施。

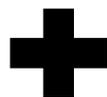
○農林水産大臣からの注意喚起、飼養衛生管理徹底の呼びかけ

越境性動物疾病防疫対策強化推進会議（令和4年9月）

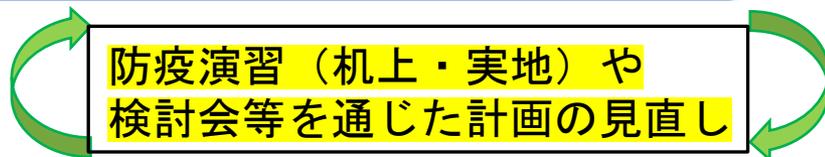
迅速な防疫措置を実施するために

① 資機材・人員確保・焼埋却の準備

- ・不足が生じることのない潤沢な資機材の確保
- ・最大速度で防疫措置が実施できるだけの十分な動員人数の確保
 - ◎ 全庁体制、市町村・関係団体との調整
 - ◎ 資材備蓄、調達先との協定締結
- ・埋却及び焼却の準備
 - ◎ 埋却地の確保及び埋却が困難な場合に備えた焼却施設の確保（協定締結等）
 - ◎ 焼却に必要な資材（密閉容器等）の確保



② 戦略的・効率的な運用

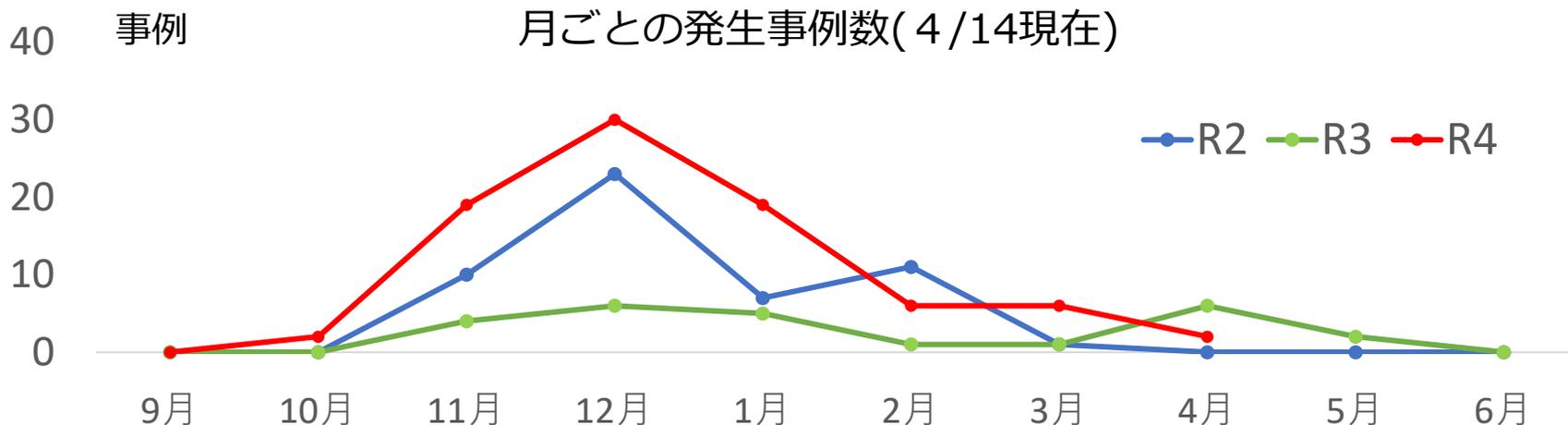


防疫演習（机上・実地）や
検討会等を通じた計画の見直し

- ・休日・夜間関係なく即応できる動員・資機材調達
- ・強固な指揮系統・関係各所との情報共有体制
- ・実態に即した要綱・要領、作業マニュアル
- ・農場における効果的な人員配置、作業分担
- ・農場の状況、畜舎構造を踏まえた資機材の有効配置・活用
 - ◎ 役割分担・作業内容の明確化
 - ◎ 庁内外への注意喚起
 - ◎ 幅広い参集範囲での防疫演習の実施

等

R2～4シーズンにおけるHPAI発生時の防疫措置の比較



	R2年シーズン	R3年シーズン	R4年シーズン
発生都道府県数	18県	12道県	26道県
事例数	52事例	25事例	84事例
殺処分羽数	約987万羽	約189万羽	約1,771万羽
羽数/事例	約19万羽	約7.6万羽	約21万羽
防疫措置完了 までの平均日数	<u>11.0日</u>	5.0日	<u>7.1日(84例目まで)</u>
うち50万羽以上	<u>28.0日</u> (5事例)	10.9日(1事例)	<u>19.6日(8事例)</u>
自衛隊派遣要請実績	31事例 (59%)	5事例 (20%)	<u>28事例 (33%)</u>

まとめ及び今後に向けた対応

➤ 今シーズンのHPAI発生時の防疫措置について、令和2年シーズンと比較して、迅速に防疫措置が実施された。また、自衛隊派遣要請についても改善。

・ 防疫措置完了までの平均日数

11日 ⇒ 7.1日

・ 自衛隊派遣要請実績

31/52事例(59%) ⇒ 28/84事例(33%)

➤ 大規模農場（50万羽以上）における防疫措置においても迅速な防疫措置が実施された。

・ 防疫措置完了までの平均日数（50万羽以上） 26日 ⇒ 19.6日

➤ 今シーズンは28事例で死体等の処理に焼却処理が活用された。



➤ 発生県においては、今シーズンの各事例について課題の洗い出しと対応を検討。

➤ 来シーズンに向けて、動員計画の点検・確認するとともに、関係者も巻き込んだ防疫演習を実施。